

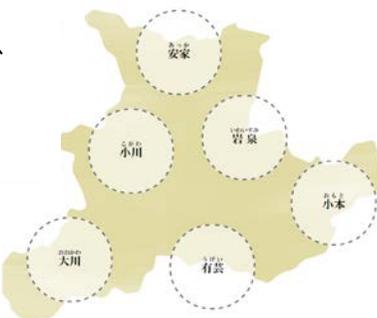
台風10号における岩泉町の被害およびボランティア活動の状況

<岩泉町とは>

992.92平方キロメートル（東西51km、南北41km）
耕地は少なく、林野率が高く、河川は小本川、安家川、
掎持川があり、流域に沿って集落を形成しています。
人口 9,959人 世帯数 4,586世帯。

<岩泉町の被害状況（10/17時点）>

- ・避難者数 213名（在宅避難者含まず）
- ・死者19名 行方不明者2名
- ・最大孤立世帯数 428世帯・873名
- ※林業、酪農、農業、加工業、観光業等、町内の主要産業に甚大な被害があり、総被害額は集計中



岩泉町被害状況（住宅・非住宅被害状況合計 10/17）

※参考 7月末時点

| | 全壊 | 大規模半壊 | 半壊 | 一部損壊 | 合計 | 大規模半壊以上の割合 | 人口 | 世帯数 |
|-----|-----|-------|-----|------|-------|------------|-------|-------|
| 町全体 | 731 | 519 | 289 | 61 | 1,600 | 78% | 9,959 | 4,586 |
| 岩泉 | 306 | 193 | 88 | 29 | 616 | 81% | 4,507 | 2,127 |
| 小川 | 10 | 136 | 111 | 8 | 265 | 55% | 2,187 | 1,008 |
| 大川 | 31 | 37 | 25 | 10 | 103 | 66% | 746 | 342 |
| 小本 | 232 | 75 | 11 | 4 | 322 | 95% | 1,690 | 700 |
| 安家 | 152 | 68 | 51 | 9 | 280 | 79% | 608 | 301 |
| 有芸 | 0 | 10 | 3 | 1 | 14 | 71% | 221 | 108 |

<台風10号における岩泉町での被害の特徴>

○広範な範囲におよぶ被害

- ⇒被災エリアが町内でも東西・南北40キロ四方に点在
- ⇒町内で、本部と小川、小本の3サテライトでのボランティアセンターの運営
- ⇒それでもボランティア活動で20分以上の移動が必要な場所もある

○土砂崩れと河川氾濫のダブル被害

- ⇒家屋への土砂流入量が多く、1家屋の土砂撤去にも30名以上の多くのボランティアを有する
- ⇒土砂被害が多いために、被災家屋のうち、全壊、大規模半壊率が多い。

○交通網の断絶

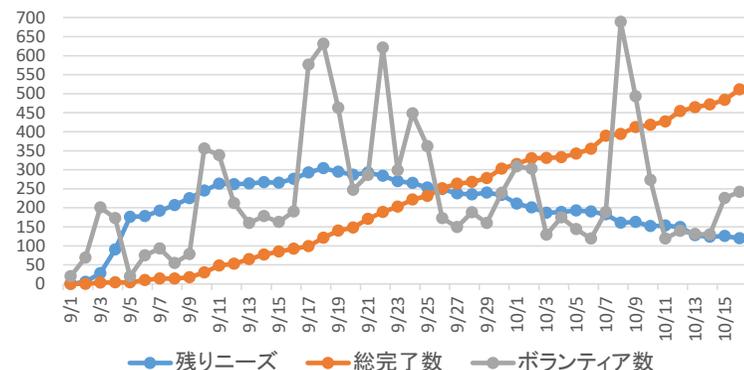
- ⇒多くの家屋が川や沢に面しており、川・沢沿いに道路を形成。多くの道路が流出した
- ⇒そのため、発災直後からボランティアを含む支援体制構築において移動が大きな障害となった。
- ⇒現状においても、自動車で向かうのが困難な家屋が存在している。

<岩泉町ボランティアセンター>

- ・本部と小本、小川の3サテライトで活動を実施。
- ・岩泉町社会福祉協議会が運営。岩手県社協、各市町村社協からの派遣職員、NPO等が運営をサポートしている。

| | 残りニーズ | 総完了ニーズ | 総ボランティア数 |
|---------|-------|--------|----------|
| 岩泉本部 | 57 | 279 | 6,765 |
| 小本サテライト | 21 | 87 | 1,294 |
| 小川サテライト | 42 | 145 | 2,974 |
| 計 | 120 | 511 | 11,033 |

岩泉町災害ボランティアセンター活動実績(サテライト含む)



<1か月半を経て、これからの課題>

これまで1.1万人のボランティア活動によって、被災家屋での土砂撤去は、一部地区では作業が必要なものの、多くの地区では終了が見えてきた状況であります。一方、顕在化してきた課題も多く、新しい支援体制が必要です。

○在宅避難者支援の充実

- ・1階が被災した家屋の2階で居住している等の在宅避難状態で生活している方が多くいます。ガスや水道が満足に使えないため、調理ができず、栄養のある食事ができていない方も多いです。
- ⇒**定期的な配食支援や炊き出し等の支援が必要となっています。**

○寒さ対策

- ・防寒具、布団、暖房用品が土砂をかぶってしまった世帯が多くあります。
- ⇒**これからの寒さに向けた支援が必要です。**

○こころのケア

- ・避難生活で疲労や今後の見通しへの不安を抱えている方が多くいます。
- ⇒**サロン活動等、こころのケアに向けた取り組みが必要です。**

これからもボランティアや物質的支援等、たくさんの支援が必要となります。継続的なご支援をよろしくお願いいたします。